

## 「光干渉断層計 (OCT)を用いたぶどう膜炎、強膜炎における網膜、脈絡膜断層像の検討」

### 1. ぶどう膜炎とは？

人の目を構成する成分として、虹彩・毛様体・脈絡膜というものがあり、これらを総称してぶどう膜と呼んでいます。何らかの原因によりこのぶどう膜に炎症がおこることをぶどう膜炎といいます。

症状としては、目の充血や涙流・目の鈍痛・視力障害があります。その原因は自己免疫疾患や感染性疾患、腫瘍性疾患などいろいろな病気があります。個々の病気の詳しいことに関しては、主治医から説明があると思いますが、眼科・全身検査を受けても原因が特定できないこともあり、内因性ぶどう膜炎の原因の50%が原因不明です。

2. 「光干渉断層計 (OCT)を用いたぶどう膜炎、強膜炎患者における網膜、脈絡膜断層像の検討」について  
近年、光干渉断層計 (optical coherent tomography: OCT)という機器を用いて眼底、とくに網膜や脈絡膜の断層像を非侵襲的に撮影することが可能となり、眼底疾患の診断や治療効果の評価が容易にできるようになりました。

ぶどう膜炎や強膜炎の治療はおもに局所治療、全身治療、外科的治療に分けられる。局所治療は主に副腎皮質ステロイド (以下ステロイド) の点眼や眼球周囲へのステロイド薬の局所注射、全身治療には主にステロイドの内服や免疫抑制剤の全身投与、また感染が原因のぶどう膜炎では感染の原因となる微生物に対する抗微生物薬の投与を行います。また眼内 (硝子体) 混濁や網膜の浮腫、網膜前膜、硝子体出血、網膜剥離に対しては硝子体手術を行います。

今回我々は 1999 年から 2013 年にアイセンターを受診し、ぶどう膜炎、強膜炎と診断され、加療された患者さんのうち OCT を用いて網膜、脈絡膜厚を測定された方を対象に治療法ごとに治療前、治療後の網膜断層像、脈絡膜断層像の変化を後ろ向きに検討し、各治療法の抗炎症効果について比較・検討することを目的とします。

### 3. 研究内容

調査対象は 1999 年 4 月 1 日から 2013 年 3 月 31 日までに杏林大学付属病院眼科でぶどう膜炎、強膜炎と診断され治療を受けた患者さんです。調査内容は、患者さんの年齢、性別、ぶどう膜炎の診断名、初診日、治療の種類、治療前、開始後の視力、眼所見、OCT を用いた網膜と脈絡膜の断層像です。

この調査では、あなたが病院で受けた検査や治療の情報をカルテから調べさせて頂き、データとして集計させていただきます。従って、この研究にご協力頂くために、特別な検査や治療を新たに行なうことは一切ありません。また、この研究では、調査内容に患者さんの個人を特定できるようなデータ (氏名、住所、患者 ID など) は一切含みません。

### 4. 同意の自由、同意撤回の自由

今回のこの研究は、過去の診療情報を調べさせて頂くものであり、特に患者さんに新たな負担やご迷惑をおかけすることは無いと考えています。もし、この研究に自分のデータを含めないでほしいというご希望がございましたら、下記の研究責任者までその旨をご連絡下さい。この研究に協力しないからといって、今後の診療に何ら不利益になるようなことはありません。

### 5. 費用負担に関する事項

今後のあなたのぶどう膜炎の診断・治療は一般診療として執り行われますので、一般診療に要する費用 (検査費、診察料、薬代など) ついては通常通り患者さんに負担して頂く必要があります。それ以外の負担をお願いすることは一切ありません。また、本研究に関する謝金はありません。

## 6. 研究成果の公表とプライバシー

データを総合し、その研究成果を学会発表、論文等により公開しますが、当然のことながら、公開内容には個人のプライバシーに関わることは一切含みません。

## 7. 研究から生じる知的財産権の帰属

研究によっては、その結果において知的財産権が生じることが考えられます。このような場合に、大勢の方の診断結果を解析、集計して得た結果の知的財産なので、その権利は研究者あるいは杏林大学に属するものとさせていただきます。これは諸外国でも同様な考え方になっています。

本研究についてご不明の点がありましたら、下記までご連絡下さい。

杏林大学附属病院でのこの研究の責任者 杏林大学附属病院 眼科 岡田アナベルあやめ  
慶野 博  
渡辺交世

お問い合わせ先 住所 〒157-0065 東京都三鷹市新川 6-20-2 杏林大学附属病院眼科  
電話 03-3308-7850 (内線 2606、眼科医局)